[博士論文審査要旨]

申請者：木村太一

論文題目 マネジメント・コントロールと組織アイデンティフィケーションの研究

-定量的調査にもとづく考察-

審査員 尾畑 裕

福川裕徳

荒井 耕

本論文は、組織成員の所属組織に対するアイデンティフィケーション（以下OIと略す）とマネジメント・コントロールとの関係性について考察し、完全には利己的・経済合理的ではない組織成員から、目標整合的な行動を引き出すためにはどうすればよいのかについての知見を得ることを目的としている。申請者は、OIが業績評価に影響を与えるメカニズムについて、分析的研究の先行研究にもとづくモデルをもとに質問票調査を行い、組織成員のOIが高まるにつれて、組織成員から望ましい行動を引き出す上で、業績指標の目標整合性の重要性が低下することを明らかにした。ただし、この結果は、自分に課せられている業績指標が何であるのかを理解している組織成員でのみ確認されたものである。次に、業績指標を十分に伝達することで、組織成員の所属部署に課せられている業績目標に対する理解度が高まり、それによって組織成員のOIが高まることを示した。また、業績指標を適切に利用することによって、OIが高まる可能性があることも指摘している。

本論文の評価できる点は次のとおりである。定量的調査により、OIが業績評価に与える影響と業績評価がOIに与える影響を明らかにしたことである。業績指標の目標整合性が果たす役割がOIによって代替されることを明らかにすることにより、業績指標の設定に際しては、精確性と目標整合性の両方を満たす業績評価システムを設計することの困難性がOIを導入することで緩和される可能性があることを示したことは重要な貢献である。もともとOIの管理会計的インプリケーションは未開拓の領域である。そうした領域において、モデルに基づく仮説を構築し、企業の全面的協力をえて企業内部での質問票調査を行い、定量的分析を試み、実務上・研究上の意義のある結果を得たことは高く評価できる。OIの測定尺度についての議論は先行研究を深く吟味したものとなっており、モデルも分析的な先行研究を十分に理解したうえで構築されている。さらに、分析に際しては適切な統計的手法が採用されており、この分野の草分け的研究として高く評価することができる。

本研究にも問題点がないわけではない。OIと管理会計との関係という視点から、OIが業績評価に与える影響と、業績評価がOIに与える影響の両方を扱っているが、その2つの研究は独立しており、両者の関連が明らかにされているとはいえない。また、定量的研究に利用したサンプルのサイズが必ずしも大きくないことによる限界もある。ただし、これらの問題点は、申請者の今後の研究にて克服可能なものであり、本研究の価値を損なうものではない。

よって、審査員一同は、所定の試験結果をあわせ考慮して、本論文の筆者が一橋大学学位規則第5条第1項の規定により一橋大学博士（商学）の学位を受けるに値するものと判断する。